



ぐんま
幼児教育センターだより
第28号



平成29年度 幼児教育センターで行う研修

☆幼稚園等の経験年数に応じた研修や職務に応じた研修

研修講座名	対象	主な目的等
新規採用教員研修	新規採用	使命感や幅広い識見を広め、幼児理解に基づいた実践的指導力を養う。(園外10日…宿泊2日)
3年目経験者研修	在職3年目	資質向上期に向けた土台づくりを目指す。(2日)
5年経験者研修	在職5～8年目	専門性を高め、実践的指導力の向上を図る。(3日)
中堅教諭資質向上研修 (昨年度までの10年研)	在職10～13年目	中核を担う教員としての資質能力の向上を図る。 (8日…社会体験研修2日)
新任幼稚園長等研修	新任幼稚園長	魅力ある園作りのための園経営力の向上を図る。(2日)
新任教頭・主任等研修	新任教頭・主任	園経営を支える実践的な組織マネジメント力の向上を図る。(1日)

☆希望者を対象にした研修講座
(対象…幼稚園、こども園、保育所、学校等教員等)

是非 ご参加ください!



研修講座名	日時	主な内容 講師等
幼児教育研修講座	7月21日(金) 9:00～16:30	「幼児の発達を促す手作りおもちゃ」 おもちゃコンサルタントマスター 松本 紗光 氏 「幼児の心を育てるパネルシアター」 パネルシアター創案者 古宇田 亮順 氏
気になる幼児の 保育研修講座	8月7日(月) 9:00～16:30 ※選択受講可	「気になる幼児の理解と援助」 NPO法人anomira代表 臨床心理士 北爪 浩美 氏 「気になる幼児の保育課題について」(小グループ事例協議) 特別支援教育有識者、経験者 9名
これからの 幼児教育を考える	8月10日(木) 13:30～16:30	「新しい幼稚園教育要領とこれからの幼児教育」 文部科学省初等中等局幼児教育課 調査官 河合 優子 氏

なお、来年度も「家庭教育充実のための地域で取り組む子育ての支援者研修会」と「夕やけ保育研修会」は県内各地で開催します。詳細については4月にお知らせします。



総合教育センターでは、長期研修員研修、特別研修員研修、長期社会体験研修を実施しています。

平成 28 年度は特別研修員 3 名、長期研修員 1 名が幼児教育に関する研究を行いました。この研究をとおして、自らの保育・教育実践力を向上させたのはもちろんですが、群馬県全体の保育の質の向上や幼保小接続の推進にも寄与してくれました。

概要版・報告書等は近々総合教育センターWeb ページにアップされます。



平成 28 年度 特別研修員・長期研修員 感想

幼児が「自分の思いを言葉で伝え合うための教師の言葉掛け」について研究しました。教師が言葉掛けのタイミングを図ることで、幼児の考える時間や伝え合う場面が増えることに気がきました。また、異校種の先生方も「話し合い」や「言語活動」を課題としていることを知ることもできました。今後は、幼稚園修了までに、どこまで育っていると良いのかを意識しながら、保育にあたりたいと思います。特研は自分の保育を見つめ直すよい機会となりました。(特別研修員 我満 直子)

研修を通し幼児一人一人が遊びの中で何を感じ、どうしたいのか、思いを引き出す保育の在り方を探ることができました。また、幼児期の学びが学校教育にどうつながるのかという視点で保育を振り返ることもできました。この研修で学んだことを生かし、今後社会を生き抜く子どもたちに必要となる教育についての意識も高めたいと思います。この貴重な経験を来年度以降に生かしたいと思います。(特別研修員 久保田 あゆみ)

異校種の先生方と、検討会やビデオリフレクション等で協議する機会が多く、幼稚園教育についても意見交換できたことは貴重な経験でした。年齢に違いがあっても、教師が子どもの育ちに寄り添い、しっかりと準備して関わることの大切さを改めて実感しました。また、クラス担任をしながら25日間研修し、じっくりと考えることで、自分自身の保育を見直すことができました。この学びを来年度以降に生かしたいと思います。(特別研修員 本間 正章)

保幼小の接続期に視点を当て、子どもたちの安心感を育む研究をして参りました。研究を進める中で、多くの保育者や教職員の、教育への熱い思いを目の当たりにし、その思いを生かせるよう教材作成に取り組みました。また、長期研修員としての一年間は、学校やそれを取り巻く地域等を俯瞰的に見つめ、考えられる貴重な学びの時間となりました。今後は、より広い視点から子どもたちに関わるよう、更に研鑽を重ねていきたいと思います。(長期研修員 關 百合香)

友達と関わって遊ぶ中で、自分の思いや考えを言葉で伝え合える幼児の育成
一心を動かすような体験を共有できる遊びを通して

特別研修員 幼児教育 我満直子(幼稚園教諭)



・思い通りにいかないと黙って遊びを抜ける。
・言葉で伝えられなかったり、言葉が足りなくて伝わらなかったりする。

・自分の思いや考えを、自分なりの言葉で言えるようになってほしい。
・友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わってほしい。



幼児の実践

教師の関わり

体験を共有し、友達との関わりを生み出す場の工夫 **環境の構成**

- 心を動かすような体験
- 友達と協力しないと扱えないような材料の提示
- 友達の話聞く場面を設定
- 繰り返し遊べるような場や時間

手立て **友達に言葉で伝えたいと思えるような教師の言葉掛け** **援助**

- 自分の思いを出せるような言葉掛け
- 伝えることを促す言葉掛け
- 友達の思いに気付く言葉掛け

～心を動かすような体験が共有できる遊び～
実践例「大型段ボール箱で遊ぼう」5歳児10月

心を動かす
大きな段ボール箱だ！
わあ！
運動会で使ったような大きな段ボール箱をみんなの見えるところに出す

友達の話を聞く
友達と関わりが生まれるように段ボール箱の数は少なめにする
遊びが広がるようスペースを広くしておく
もも組さんが来てくれて、うれしかった

自分の思いを伝える
呼んでくるから待ってて
誰か呼んできて！
〇君はどう思っているのかな？
今みたいに言ってみたら？
どんなことをして遊んだの？

年中児を遊びに誘う
びっくり箱に遊びに来て！
うん！いいよ

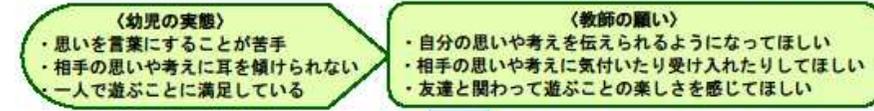
段ボールが立つように考えを出し合う
積み木で押さえてみよう！
ガムテープで貼ってみようよ

成果と課題

- 友達と協力しないと扱えないような材料を提示し、友達と一緒に繰り返し遊べる場や時間を保障したことで、いろいろな場面で言葉でのやり取りが増え、思いや考えを伝えることにつながった。
- 教師が先回りして教材を提供したり、必要以上に言葉を掛けたりすることで、思いや考えを伝え合う機会がなくなってしまうこともある。今後も、教材の提示の仕方や教師の関わり方を工夫していきたい。

自分の思いや考えを出し、相手の思いや考えに気付いたり受け入れたりして共に遊ぶ幼児の育成 ～共通する体験や活動を基にした遊びを通して～

特別研修員 幼児教育 久保田あゆみ (幼稚園教諭)



〈実践〉遊園地遊び (5歳児 10月)
～遠足という共通する体験を基にした遊びの設定～

手立て1 共通する体験や活動を基にした遊びの場の工夫

- ・試行錯誤するための、十分な材料を用意する
- ・考えを出してじっくりと遊ぶための時間や場を確保する

手立て2 一人一人の思いや考えをつなげる教師の関わり

- ・共感的に受け止め、他の幼児に知らせることで認められる場面をつくる
- ・友達の思いや考えへの気づきを促す援助を行う

手立て1

- ・段ボールやガムテープなどを十分に用意
- ・テラスや芝生にテントやシートを設置

あ段ボールで作ろうよ

どの段ボールで作ろうかな

手立て2 認められる場面をつくる教師の関わり

この椅子C君たちが作ったのよ

C君たちすごい

僕がスタートの合図をするよ

友達と関わる楽しさを感じ、思いを出す姿につなげた。

手立て1

- ・給食後も遊びの続きができるように時間を確保

続きどうする?

急流滑り作ろうよ

手立て2 気づきを促す援助

どうしたら良いか みんなに聞いてみようか

タイヤを外れたどうしよう

タイヤを外して滑ってみる?

相手の考えを受け入れる姿につなげた。

成果

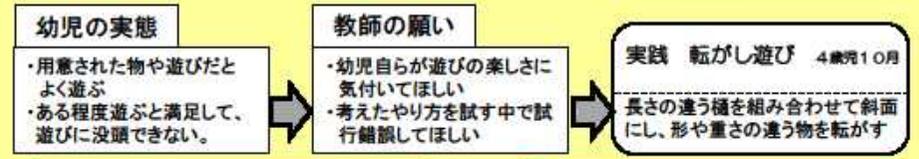
- ・共通の体験を基に遊び、認められたことから友達と関わる楽しさを感じ、思いを出す姿が見られた。
- ・困難を感じた場面では、困ったことを伝え、どうしたら良いか考えたり、相手の考えを受け入れたりしながら解決しようとする姿が見られるようになった。

課題

- ・幼児が困難を感じている場面で、教師がすぐに声を掛けたり解決策を提案したりするのではなく、声を掛けるタイミングを回り、見極めていくことが課題である。

好奇心を持って遊びに関わる幼児の育成 ～おもしろさや楽しさに気づき、試行錯誤できる遊びを通して～

特別研修員 幼児教育 本間正章 (幼稚園教諭)



手立て1 おもしろさや楽しさに気づき、試行錯誤できる場の工夫

- 友達のやり方を見合える距離感の意識
- 形や重さ、長さの違ういろいろな物の準備
- 自分のやり方を試せる時間の保障

手立て2 次の遊びに向かって、イメージを広げる教師の適切な関わり

- 幼児の気づきへの共感
- 友達を意識できる言葉掛け
- 意図的な見守り

試行錯誤できる遊び

物や場の準備

自分で考えて転がすコースが作れるよう、遊戯室に種々な棒などを準備する

おもしろいけど 止まっちゃうよ

棒の接続の仕方では止まってしまう

友達のやり方を見合える距離感の意識

「B君の所で止まっちゃうみたいだよ」と近くで同じ遊びをする友達に言葉を掛ける

友達を意識できる言葉掛け

ジャンプさせよう いいね

協力してジャンプさせることで、おもしろくなる

考えたことを試せるよう、棒で支えながら、じっくり遊びに関わる時間を保障する

なかなかできない

こうやってみようよ

急な斜面のために、コースが壊れてしまう

ジャンプさせたり棒に集めたりゴールを作ったりして、新たな遊びの姿を見守る

意図的な見守り

おもしろそう

バケツをゴールにしたよ

他の物を取り入れたりして遊びを発展させる

自分で考えたやり方を繰り返し試す
おもしろさに気づき、好奇心を持って遊ぶ

成果

- ・幼児の発想を支える場や物の工夫、気づきへの共感、意図的な見守りなど、教師が適切な援助をしたことで、思い切り試行錯誤でき、おもしろさや楽しさに気づき、好奇心を持つことができた。

課題

- ・4歳児の遊びを支えるには、一人一人の幼児の発達を多面的に捉え、遊びの中で状況をしっかりと見取ることが大切だったので、今後も丁寧に見取って援助したい。

